

第3回 県立病院あり方検討有識者会議

日時:令和8(2026)年3月2日(月)19時～

場所:栃木県庁本館6階大会議室1

- 1 第2回会議等でいただいた御意見の整理
- 2 県立病院のあり方に関する検討報告書(案)
- 3 今後の進め方(基本構想策定に向けた委員会の設置)
- 4 国立病院機構栃木医療センターとの統合に向けた協議
- 5 御意見いただきたいこと

1 第2回会議等でいただいた御意見の整理

1 第2回会議等でいただいた御意見の整理

第2回会議の主な御意見のまとめ

項目	第2回会議の主な御意見のまとめ
総合病院化の進め方	<ul style="list-style-type: none">・「県立病院以外の病院との統合による総合病院化」が現実的である・「各県立病院を総合病院化」、「県立病院のみの統合による総合病院化」は現実的ではない
統合の相手方	<ul style="list-style-type: none">・整備場所や診療機能（高齢者医療・高齢者救急）の面から、NHO栃木医療センターとの統合が現実的である・NHO宇都宮病院は、結核などの政策医療を担っているため、残すメリットが大きい・宇都宮の南地区から病院が無くなると、医療過疎となる可能性があるため、JCHOうつのみや病院は今の場所で存続させる必要がある
診療機能	<ul style="list-style-type: none">・総合診療機能、包括期機能（※）を確保すべき （※）高齢者等の急性期患者について、治療と入院早期からのリハビリテーション等を行い、早期の在宅復帰を目的とした治し支える医療を提供する機能・済生会宇都宮病院の急性期を脱した患者を十分に受け入れ、済生会宇都宮病院の高度医療を支えられる機能を持たせることが重要
整備場所	<ul style="list-style-type: none">・現在の医療提供体制を考えると宇都宮市内での整備が現実的であり、既存の病院の医療圏を侵害しない場所を考える必要がある・新たな県立総合病院の隣接したところに独立した精神科の病院を作ることが、岡本台病院の機能を維持するためには重要

1 第2回会議等でいただいた御意見の整理

宇都宮地域医療構想調整会議(R7.12.23)の主な御意見のまとめ

発言者	発言内容
国立病院機構 宇都宮病院 (杉山院長)	<ul style="list-style-type: none">・岡本台病院は、医療観察法医療があるため、独立した病院として継続するしかない。・リハセンターは、建物が新しいので、現時点では場所を移動しての統合には向かない。・県立病院同士で再編する場合、リハセンターの隣りに新病院を作り、がんセンターを含めて統合するのは一つの方法である。・<u>公的病院を含めて再編を検討するのであれば、個人的には、NHO栃木医療センターが候補と考えている。</u>・<u>がんセンターの建物は老朽化しているため結論を急ぐ必要があり、がんセンターと栃木医療センターを今後の医療にあった形に再編、統合するのが現実的と考えている。</u>
JCHOうつのみや 病院 (堀江院長)	<ul style="list-style-type: none">・県立病院の再整備に関しては、がんセンター、リハビリテーション、精神科医療に加えて、県として、しっかり政策医療ができる体制にさせていただくのが良いかと思う。そうした意味で、<u>県立病院の総合病院化に賛成する。</u>・<u>総合病院化の進め方については、それなりに人員が確保できるというところで、有識者会議で提案された内容で異存はない。</u>・当院は、宇都宮南部の地域医療、特に2次救急、高齢者救急、小児救急を担いながら、今後も地域に貢献することができればと考えていることから、新たに整備される病院が、本院を含めて他の病院の医療圏と重ならないようにお願いしたい。
済生会宇都宮病院 (篠崎院長)	<ul style="list-style-type: none">・今回の県立病院のあり方に関して、方向性としては、宇都宮地域である程度目的を絞った病院を構想しているとのことであるので、そうした病院ができれば、十分に地域で連携して、当院も協力してやらせていただきたい。・県立病院の再整備の過程の中では、今後の話し合いにおいて、ある程度の役割分担をしつつということにはなると思うが、引き続き、当院に求められるニーズに応えたいと思うし、お互いに連携してやっていきたい。
国立病院機構 栃木医療センター (石原院長)	<ul style="list-style-type: none">・<u>県立病院との統合協議に入れるかどうかは、県・国立病院機構本部・当院と話しをした上で決定していきたい。</u>・<u>県立病院のための統合ではなく、県民のためになる統合ができるかどうかを検討したい。</u>・新病院に必要なものは盛り込み、必要でないものは省いていかなければならない。・当院は約 600 人の職員を抱えている。<u>職員が不利益を被らない形に整えられるかどうかを考慮し、返事を考えていきたい。</u>

2 県立病院のあり方に関する検討報告書(案)

(1) 県立病院の今後のあり方・目指すべき方向性(提言)

- 第1回会議、第2回会議における議論等を踏まえ、以下のとおり、提言(案)を整理した。

前文

- この提言は、県により設置された「県立病院あり方検討有識者会議」において、県内の医療関係の有識者が、県立病院の今後のあり方や目指すべき方向性について、実現可能性や地域医療の現状を踏まえて検討を行い、現時点において効果的と思われる形をまとめたものである。
- 県立病院である、がんセンター、リハビリテーションセンター及び岡本台病院は、これまで、時代の変化にも呼応しながら、地方独立行政法人化を図るなど、今日に至るまで、がん、障害、リハビリテーション及び精神の各専門領域において、県民のための医療の確保に重要な役割を果たしてきた。
- 近年、県立病院を取り巻く環境は、高齢化の進展に伴う併存症のある患者の増加、救急医療の逼迫、コロナ禍の経験を踏まえた感染症への対応、激甚化・頻発化する災害への対応など、医療需要や医療ニーズが大きく変化してきている。
- 一方、県立病院は、少子化等に伴う人材不足、物価や人件費の高騰などにより厳しい経営状況にある。そのような中、がんセンター及び岡本台病院は、病院施設・設備の老朽化の進行に伴い診療機能や療養環境への影響も生じるなど多くの課題を抱え、早急な再編整備が必要な状況にある。
- 本有識者会議では、こうした状況を踏まえ、地域医療構想の実現を目指し、県立病院のあり方・目指すべき方向性として、以下のとおり整理した。
- 県においては、県立病院の再編整備に当たり、本提言を踏まえつつ、利用者たる県民のニーズ等も十分に把握しながら今後さらなる検討を進め、将来の人口動態や医療需要を見据えた上で、良質かつ適切な医療を効率的に提供できる持続可能な県立病院の再整備方針について、県民の理解も得ながら決定・実行していくことを期待する。

(2) 県立病院の今後のあり方・目指すべき方向性(提言)

(1) 診療機能

- 現在の県立病院が有する専門的な診療機能(がん医療、リハビリテーション医療、精神科医療)については、今後も地域からの求めに応じた一定程度の役割を担うこと。
- 高齢化に伴う併存症患者の増加及び県の政策医療における重要課題(救急医療、災害医療、新興感染症対応等)へ対応するためには、「県立病院の総合病院化」が必要であること。

(2) 整備場所

- 現在の県立病院の立地場所や他の医療機関との地域バランスを考慮しながら、地域医療構想を踏まえた上で、今後の検討を進めていくこと。

(3) 病床規模

- 現在の許可病床数より削減することを基本として、将来を見据えた医療需要等を含め、地域医療構想を踏まえた上で、今後の検討を進めていくこと。

(4) 人材確保

- 労働力人口の減少や医療従事者の働き方の変化に伴い、よりいっそう医療従事者の確保が難しくなることが見込まれることから、幅広く経験を積み、将来のキャリア形成を図ることができる研修教育環境を整えるなど、魅力を備えた病院の整備が必要であること。

(5) 地域医療構想の推進

- 県立病院の総合病院化の進め方は、人材確保等の観点から「県立病院以外の病院との統合による総合病院化」が望ましいこと。
- 宇都宮医療圏の3次救急の医療機関等を支え、2次救急や高齢者救急の機能等の総合診療機能を備えていること、また、県の政策医療における重要課題(救急医療、災害医療、新興感染症対応等)の解決、加えて、現在の県立病院の立地場所や他の医療機関との地域バランスを考慮すると「国立病院機構栃木医療センター」との統合が望ましいこと。
- がんセンター及び岡本台病院においては、病院施設の老朽化の進行により、診療機能への影響も生じていることから、関係機関等と早期に協議を進めるなどし、地域医療構想を踏まえながら、必要な医療提供体制の確保に向けて、速やかに県立病院の再編整備を推進していくこと。
- 「県立病院」の再編整備であることから、宇都宮医療圏だけではなく、県全域の県民が安心して暮らせる医療提供体制の充実・強化に資するものとする。

(6) 経営の効率化

- 経営の効率化、医療機能の強化及び持続可能な医療提供体制を確保するため、県立病院の3法人(及び統合する場合は統合先の病院を含めて)全てについて、同一法人化(機構化)を図ることが望ましいこと。

(2) 県立病院の今後のあり方・目指すべき方向性の姿(案)

※有識者会議の議論・提言に基づき作成したものであり、今後、基本構想策定等の中で、整備方針を固めていく必要あり

県立病院が目指すべき方向性

県民から信頼される病院として、将来に渡って良質な医療を効率的に提供し、県民が安心して暮らせるとちぎづくりに貢献する

1. 高齢社会(高齢者救急・医療)に対応した病院

- ・高齢者の増加に伴う併存症や救急等の医療ニーズへ対応

2. 災害や新興感染症の発生時に、率先して対応できる病院

- ・災害や新興感染症の発生時における医療を確保、提供

3. 現在の各病院の特性や専門性を活かした病院

- ・総合診療機能等を加えることで、がん医療、リハビリテーション医療、精神科医療の各専門領域をさらに活かした医療を提供

4. 医療従事者が集まる魅力ある病院

- ・研修教育環境及び県養成医師への支援を充実

5. 経営が安定し、将来にわたって持続可能な病院

- ・現在、病院ごとに設立している3つの地方独立行政法人を統合することで、経費の節減や事務の効率化等を図り経営を効率化
- ・将来の医療需要を見据え、現在の許可病床数より病床数を削減



県立がんセンター
(291床)



県立リハセンター
(153床)



県立岡本台病院
(221床)



NHO 栃木医療センター
(350床)

経営統合

新地方独立行政法人 県立病院機構(仮称)

新病院

※統合する県立病院については基本構想策定の中で検討



県立総合病院



県立岡本台病院

総合病院の
隣接へ整備

連携
強化

〔連携強化の内容〕
患者の紹介・逆紹介
職員派遣・育成
高度機器共同利用



県立リハセンター

再編統合のイメージ図

3 今後の進め方

3 今後の進め方(基本構想策定に向けた委員会の設置)

設置目的

- 「県立病院のあり方に関する検討報告書」の内容をベースに、新県立病院の整備に係る基本構想の策定に関する必要な意見聴取を行う

検討内容

- 新病院の診療機能、病床数、整備場所、事業スケジュール、収支計画など

検討体制(予定)

- 広く県民の声を県立病院の再整備に反映するため、今年度の委員に加え、県議会や市町、関係団体等にも検討に加わっていただくことを想定

検討スケジュール(予定)

- 令和8年度は3～4回程度、会議の開催を予定

4 国立病院機構栃木医療センターとの統合に向けた協議

5 御意見いただきたいこと

- **【報告書】県立病院のあり方に関する検討報告書(案)の内容について**

- 特に、P6～P9(報告書P43～P48)の県立病院の今後のあり方・目指すべき方向性

- **その他**

- 本日の会議資料全般、今年度のこれまでの会議全般など